

民主主義

信条・われわれは日本における真の民主主義の確立に寄与したいと考える。なぜなら日本が新たな独裁主義勢力の支配に屈したら再び民主主義に復帰することは不可能だからである。

日本の民主主義を育てる会
東京都新宿区筑土八幡町5
中央開発ビル3階
TEL 508-8424
発行人 藤田 勉
編集人 斎藤 秀
河和田 利夫 印刷株式会社
東京都新宿区高田馬場2-5-5

◆転載利用について◆
無断転載はご容赦いただき、本会にお知らせください。また、「民主主義」からの転載の旨を明示した転載紙を本会宛一部お送りください。

いま日中関係を問う

東京外語大学教授 中嶋嶺雄



中国の「開放」政策にリンクして始まった過去二、三年來の日中経済関係は、中国側の政策

のなつまつぎ、深刻な外貨不足などで大きく傾斜し、総額数百億円にのぼるトランプがあちこちで生じている。歴史上、日中関係がこれほど安定していなかった時期はないと宣伝され、わが国の政・財・官界を貫く中国フィーパー、日中関係には友好ムードが横溢していただけに、昨年後半以降の日中経済関係の冷え込みは、きわめて印象的だ。

「一翻帳」条項入り日中平和友好条約の締結によって、日中関係ははじめて日本の外交の選ばれたとされる(中国の反「覇権」戦略という看板を完全におろしてしまつた)日中関係の将来にたいしては、このような「政治決着」は、当面の政治的および外交的配慮としてはあるいは妥当であつても、日中関係の本質を大きく損うばかりか、双方に大きな禍根を残すことになるのではないかと、わが国が経済的にも社会的にも中国よりもはるかに強い立場にありながら、道義的にはつねに中国側に優位があり、日本側が中国側にたいして外交上も位置を占めるというパターンを固定化することは、日中間の潜在的な摩擦をさらに増幅させることになり、日本国民にやがて強い反中感情を植えつけることにもなりかねない。

日本外交は、一九七八年夏の「一翻帳」条項入り日中平和友好条約の締結によって、日中関係ははじめて日本の外交の選ばれたとされる(中国の反「覇権」戦略という看板を完全におろしてしまつた)日中関係の将来にたいしては、このような「政治決着」は、当面の政治的および外交的配慮としてはあるいは妥当であつても、日中関係の本質を大きく損うばかりか、双方に大きな禍根を残すことになるのではないかと、わが国が経済的にも社会的にも中国よりもはるかに強い立場にありながら、道義的にはつねに中国側に優位があり、日本側が中国側にたいして外交上も位置を占めるというパターンを固定化することは、日中間の潜在的な摩擦をさらに増幅させることになり、日本国民にやがて強い反中感情を植えつけることにもなりかねない。

五信頼、長期安定の四原則を堅持しなければならない。四、中日友好がめざす最高の目標は、子々孫々の友好を実現することである。

七月六日に行なわれた同日選挙では、衆参両院とも自民党のいわずの大勝に終つた。特に衆院は定員五一二名中、三〇四名という空前の多数議席を獲得した。その勝因については一言したい。

わが党は、民主主義の理念を基調として、諸般の制度、機構を刷新改善し、文化的民主国家の完成を期する。と記してあり、次の公明党についても、同書の中に簡潔に四節がとり上げられ、その中の第一節に「人間性尊重の中道主義を貫く」とある。

自民党の勝因

熊谷太三郎
(参議院議員)

- 前文 日本現状
- 第二章 平和革命と民族独立闘争
- 第三章 党の任務と性格
- 第四章 社会主義の目的
- 第五章 社会主義の目的
- 第六章 社会主義の目的
- 第七章 社会主義の目的
- 第八章 社会主義の目的
- 第九章 社会主義の目的
- 第十章 社会主義の目的
- 第十一章 社会主義の目的
- 第十二章 社会主義の目的
- 第十三章 社会主義の目的
- 第十四章 社会主義の目的
- 第十五章 社会主義の目的
- 第十六章 社会主義の目的
- 第十七章 社会主義の目的
- 第十八章 社会主義の目的
- 第十九章 社会主義の目的
- 第二十章 社会主義の目的
- 第二十一章 社会主義の目的
- 第二十二章 社会主義の目的
- 第二十三章 社会主義の目的
- 第二十四章 社会主義の目的
- 第二十五章 社会主義の目的
- 第二十六章 社会主義の目的
- 第二十七章 社会主義の目的
- 第二十八章 社会主義の目的
- 第二十九章 社会主義の目的
- 第三十章 社会主義の目的
- 第三十一章 社会主義の目的
- 第三十二章 社会主義の目的
- 第三十三章 社会主義の目的
- 第三十四章 社会主義の目的
- 第三十五章 社会主義の目的
- 第三十六章 社会主義の目的
- 第三十七章 社会主義の目的
- 第三十八章 社会主義の目的
- 第三十九章 社会主義の目的
- 第四十章 社会主義の目的

われわれは、日本の社会にあまねく民主主義を、その理念を普及し、その制度への具体化を計らうとするものである。云々。

このように性格の相違は、た